

恒例の野草展が始まりました

21日、区立大田黒公園（荻窪3-33-12）では、毎年恒例となった野草展が始まりました。この野草は、杉並野草の会のメンバーが丹精込めて育てたもので、300鉢ほどが並んでいます。展示会は23日までで、野草の種の配布も行われています。

21日、八重桜が満開の大田黒公園の会場には、杉並野草の会[金順一（こんじゅんいち）会長（81歳）]のメンバー80名ほどが、丹精込めて育ててきた山野草やミニ盆栽など300鉢が並べられ、区内外から多くの来場者が訪れていました。

展示されている山野草は、釣竿のような茎に鯛がぶら下がっているようなので、別名をタイツリソウとも呼ばれている「ケマンソウ」や花後にできるタネに白く長い毛があり、その姿を老人の白髪に見立てて付けられた「翁草」などが並べられ、メンバーが育て方とともに、命名の由来などもわかりやすく説明してくれます。



杉並野草の会の結成は昭和51年で、この展示も36回目となります。メンバーの多くは高齢者ですので、展示と同時に若い方の入会を促すことも、この展示会の大きな目的の一つです。そこで、新メンバーを呼び込む効果的な方法として、山野草の種子を無料で配布しています。今回は、カワラナデシコやカリガネソウなど70種類の種子を会員が持ち寄り、5~10粒くらいずつに小分けしました。昔懐かしい粉薬の包み方で、種子を包んでいます。その数は、2500です。毎年、野草の展示会には3000名程度の来場を見込んでいるため、3月中旬にメンバーが総出で作業に当たったそうです。



第36回杉並野草展

【開催日時】4月21日(金)~23日(日) 午前10時~午後4時(24日は午後3時まで)

【場所】杉並区立大田黒公園(杉並区荻窪3-33-12)

【入園料】無料 【その他】70種ほどの野草の種を希望者に配布

【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-2111